

2023年度(評価対象期間:2023年4月～2024年3月) 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
①	大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。	(1)	学部・学科ごと、研究科又は専攻ごとに人材育成その他の教育研究上の目的を設定していますか。また、その内容は適切ですか。	A
		(2)	大学の理念・目的と学部・研究科の目的に関連性がありますか。	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 日本文化学科では、日本文化の諸領域のなかに自ら課題を立て、それを解決できる能力を養成することで、社会に役立つ人材を育てることを、人材の養成・教育研究上の目的としている。この目的を達成するために、「言語」「文学」「思想と芸術」「社会と民俗」の4領域から日本文化について学び、それをさまざまな形で発信できる人材の育成に努めている。また、「日本文化への深い理解が個人の強固な基盤になる」という信念のもと、文化探求現場主義をモットーとして、座学のみならずフィールドワークも重視している。幅広い教養修得を目指している教養教育についても積極的に取り組んでいる。また、授業のなかで積極的にアクティブ・ラーニングを導入するなどして、「知の実践と自己の把握」「広く各界に寄与し、人類の福祉と文化の発展に貢献する」人材の育成を行っている。				
(2) 本学の理念と目的は、仏教、特に禅の思想に立脚するものである。これらの思想は長い歴史をととして日本文化の中に浸透し、それを根底から支え続けてきた。それ故、日本文化学科が目指す教育自体が、本学の理念と目的と重なるものと言うことができる。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
愛知学院大学「建学の精神」ウェブサイト https://www.agu.ac.jp/guide/ideal/ideal.html				
愛知学院大学 各学部の「人材の養成・教育研究上の目的」ウェブサイト https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/purpose1.pdf				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
②	大学の理念・目的及び学部・研究科の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。	(1)	学部・学科ごと、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示していますか。	A
		(2)	教職員、学生、社会に対する刊行物、ウェブサイト等により、大学の理念・目的、学部・研究科の目的等が周知及び公表されていますか。	A
【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 日本文化学科の人材の養成・教育研究上の目的を「愛知学院大学人材の養成・教育研究上の目的に関する規程」に明示している。				
(2) 日本文化学科の人材の養成・教育研究上の目的を大学ホームページ、および履修要項に掲載し、教職員と学生に周知するとともに、社会に公表している。また、人材の養成・教育研究上の目的をより分かりやすい表現で大学案内や学科のホームページ、各種の案内資料に掲載し、周知を図っている。				
【根拠資料】 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
愛知学院大学 各学部の「人材の養成・教育研究上の目的」ウェブサイト https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/purpose1.pdf				
履修要項(P31)				
五感で感じる日本文化				
文学部への招待(日本文化学科のページ)				

2. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。自己評価欄を「S」とした場合は、必ずその内容を成果とともに記述してください。	
点検・評価項目番号	長所・特色
	なし
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	

3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。自己評価欄を「C」とした場合は、必ずその内容を記述してください。	
点検・評価項目番号	課題・問題点
	なし

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画（既に実施している場合はその進捗状況も含めて）を記述してください。	
点検・評価項目番号	改善策
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	

5. 「基準1」全体の自己評価

基準全体の評価を、 「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、 「C:重度な問題がある」から選択してください。	自己評価
	A

2023年度(評価対象期間:2023年4月～2024年3月) 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
③	方針及び手続に基づき、内部質保証システムは有効に機能しているか。	(1)	学部・研究科その他の組織における定期的な点検・評価及び点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取り組みを計画的に実施していますか。 ※各学部・研究科の自己点検・自己評価委員会の年2回以上の開催及び委員会での取り組み内容について具体的に記載してください。	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。 (1) 春学期には7月、秋学期には1月に、各教員が大学所定の授業アンケートを原則すべての講義科目において実施している。その結果に基づいて、教員は自己評価および改善策などを記し、今後への課題の検討を行っている。また、文学部全体として、教員相互の授業参観を行い、参観後の感想や意見をまとめて交換している。また、日本文化学科では2019年度より、学生の代表と教員が一同に会して、学生からの率直な要望や意見の聴取を行う試みを開始したが、2023年度は11月8日(水)に、アルバム委員会参加の4年生に対して聞き取りをおこなった。これらの結果は、日本文化学科科会において点検・把握して報告書を提出し、内部質保証体制を構築している。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
春学期 秋学期 授業アンケート結果集計				
学生代表との懇談 実施記録(FD活動報告書)				
日本文化学科科会資料				

2. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。 特にない場合は「なし」としてください。自己評価欄を「S」とした場合は、必ずその内容を成果とともに記述してください。	
点検・評価項目番号	長所・特色
	なし
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	

3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。自己評価欄を「C」とした場合は、必ずその内容を記述してください。

点検・評価項目番号	課題・問題点
	なし

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画（既に実施している場合はその進捗状況も含めて）を記述してください。

点検・評価項目番号	改善策
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	

5. 「基準2」全体の自己評価

自己評価
基準全体の評価を、 「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、 「C:重度な問題がある」から選択してください。
A

2023年度(評価対象期間:2023年4月～2024年3月) 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
①	授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。	(1)	課程修了にあたって、学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果を明示した学位授与方針を適切に設定し公表していますか。	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1)日本文化学科では「教養教育科目と専門科目を履修することで、広い教養と深い専門知識を修得し、社会の諸側面において自らのなかに課題をみつけ、探求していく姿勢、理論的思考と的確な判断力、社会の変容に対応できる力を身につけた学生に学位を授与」とし、学生が修得することが求められる学修成果を具体的に明示している。この方針は大学ホームページ、履修要項に掲載し公表している。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
文学部履修要項(P33)				
「ディプロマ・ポリシー」ウェブサイト				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
②	授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	(1)	下記内容を備えた教育課程の編成・実施方針の設定及び公表をしていますか。 ・教育課程の体系、教育内容 ・教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等	A
		(2)	教育課程の編成・実施方針と学位授与方針には適切な連関性がありますか。	A
【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 日本文化の総合的理解を目指して、「言語」「文学」「思想と芸術」「社会と民俗」の4つの領域を設けている。これら4つの領域では、それぞれ1群、2群、3群と、入門的な内容から専門性の高い科目まで段階的に配置して、学生が無理なく各学問領域を理解できるようにカリキュラムを構成している。また、とりわけ3群に属する3年次と4年次のゼミでは、少人数教育によるきめ細かな指導を行っている。このような教育内容、授業形態等を備えた教育課程の編成・実施方針を設定し、履修要項、大学ホームページで公表している。また、それにもとづく授業選択のあり方を、学生に対しては4月の年度当初に各学年ごとに説明している。				
(2) 本学科が学生に求める学修目標に照らし合わせて学位授与方針を定め、それにもとづいて教育課程の編成・実施方針を設定している。したがって、教育課程の編成・実施方針は学位授与方針に直結するものである。				
【根拠資料】 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
文学部履修要項(P33・P156)				
大学案内(P35)				
春のガイダンスのパワーポイント資料(教務課)				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
③	教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	(1)	教育課程の編成・実施方針と教育課程の整合性はとれていますか。	A
		(2)	教育課程の編成にあたっての順次性及び体系性への配慮、授業科目の位置づけ(必修、選択等)は適切ですか。	A
		(3)	個々の授業科目の内容及び方法は、教育課程の編成・実施方針を踏まえていますか。	A
		(4)	各学位課程にふさわしい教育内容を設定していますか。 ＜学士課程＞ 初年次教育、高大接続への配慮、教養教育と専門教育の適切な配置等 ＜修士課程、博士課程＞ コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮等	A
		(5)	学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育を適切に実施していますか。	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 1年次に日本文化学修の導入的な授業、2年次にゼミ選定のために必要な知識の修得の授業、3年次に専門的なゼミでの学修、4年次にその集大成としての卒業論文作成を目指した教育を行うことで、教育課程の編成・実施方針にもとづく授業科目を体系的に学修できるようなシステムを構築している。				
(2) それぞれの分野の関連授業の実施にあたっては、常に基礎的なレベルから発展的レベルへの移行ができるような授業の配置を行っている。したがって、教育課程の編成における順次性、体系性への配慮は十分になされていると言える。詳細は下記(3)を参照されたい。				
(3) 日本文化学科の専門教育科目は、基本的に1年次から取得可能な1 群科目(24 単位以上)、2年次から取得可能な2 群科目(30 単位以上)、3年次から取得可能な3 群科目(22 単位以上)から成る。1 群は、4 つの領域の基礎的・概論的講義科目、および専門性を深めた講義科目と、フレッシュマン英会話(1 年次以上)、上級英会話(2 年次以上)から成る。2 群は、4 つの領域の内容を特化した科目、学科の特色を反映する科目からなる選択必修科目であるが、2 群の日本文化特講ⅠとⅤは、2 年次の必修科目としている。3 群は3 年次の演習と講読、4 年次の総合演習と卒業論文、および3年次から取得可能な日本文化を世界的視点から考察する 2 科目から成る。このように、個々の授業科目の内容および方法は、基礎的なレベルから発展的レベルへの移行ができるように配置されている。また、個々の授業科目の内容および方法が、教育課程の編成・実施方針を踏まえたものになっているかについては、シラバス作成時、ならびにシラバスの相互チェック時に確認を行っている。				
(4) 入学生に課題図書にもとづくレポートの作成を課し、それに対する個々の指導を行う。2年生春学期開講の日本文化特講Ⅴにおいて、全学生を対象として専門教育における教員各員の専門分野の概略を講じ、専門課程に進級後の学修計画策定のための知識を与えている。				
(5) 2年生秋学期における日本文化特講Ⅰにおいて、全学生を対象として文章表現や履歴書の書き方の指導を行う。また、3年次と4年次におけるゼミの授業、ならびに卒業論文の作成指導においては、文章作成能力、論理展開能力、文献調査と参考資料の提示方法、フィールドワークなどの技能向上の指導も行っている。その他、教員養成課程、学芸員養成課程、図書館司書養成課程を設置して中学・高等学校国語科教員の養成と博物館学芸員、図書館司書の養成を行い、22年度から日本語教師の養成課程も開設した。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
文学部履修要項の中の「カリキュラムツリー」「カリキュラム概要」「カリキュラムマップ」(P157-P170)				
文学部履修要項の中の「カリキュラポリシー」(P156)				
文学部講義概要				
資格課程履修要項				
入学生への課題図書レポート作成の指示書				
日本文化特講Ⅴのシラバス				
日本文化特講Ⅰの授業マニュアル				
2年生アンケート				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
④	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	(1)	単位の実質化を図るための措置（授業時間外に必要な学習の促進、学士課程においては履修登録単位数の上限設定等）を講じていますか。	A
		(2)	シラバスの内容（授業の目的、到達目標、学習成果の指標、授業内容及び方法、授業計画、授業準備のための指示、成績評価方法及び基準等の明示）は適切ですか。 また、授業内容とシラバスとの整合性が確保されていますか。	A
		(3)	学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容及び授業方法などの措置を講じていますか。 （教員・学生間や学生同士のコミュニケーション機会の確保、グループ活動の活用等）	A
		(4)	各学位課程に応じてその他の措置を講じていますか。 ＜学士課程＞ ・授業形態に配慮した1授業あたりの学生数、適切な履修指導の実施 ＜修士課程、博士課程＞ ・研究指導計画（研究指導の内容及び方法、年間スケジュール）の明示とそれに基づく研究指導の実施	A
【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体（会議名・誰が）」、「どのように（方法・指標）」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 授業時間外に必要な学修については、各授業ごとに講義概要の中に明記している。また、履修登録単位数の上限についてはCAP 制を導入している。各学期の履修の上限を 28 単位とし、年間で 44 単位とする。また、下限は 1 年次各学期 16 単位、2 年次各学期 14 単位、3 年次各学期 10 単位、4 年次各 学期 2 単位に設定している。前セメスターの GPA が 3.0 以上の場合、次のセメスターは、教務部長に願い出ることによって、2 単位多く履修することができるように設定されている。 (2) シラバスには、授業の概要、到達目標、授業計画とその内容、授業時間外の学修内容とそのための所要時間、成績評価方法及び基準、質疑応答への対応方法等を明示している。また、シラバスに示された成績評価の基準は、定期試験、小テスト、受講態度、発表内容などの比率が合計100%となるよう示されている。なお、シラバスの作成にあたっては、学科内で二人一組となって教員が記述内容の相互チェックを行い、不備がある場合にはその修正を行い、その完了を学科内で互選された委員に報告を行っている。 (3) 1年生の全学生に対して、日本の文化を実際に体験するため、学外の博物館などに赴いたり、指導員を招請したりして行う体験プログラムを行っている。2年生の全学生に対して、秋学期開講の日本文化特講Ⅰで専門教員を招請して、日本画作成、茶道、風呂敷を体験する時間を設けている。3、4年生は、各ゼミ毎に、学生に課題を出して発表させたり、輪読したり、ディスカッションをしたりすることで、アクティブ・ラーニングの意欲も活性化させる試みがなされている。その他、各ゼミ毎に寺社、美術館や博物館、文化施設などの関係各所へ赴くゼミ旅行なども実施している。学生の主体的な参加を促す授業の実施方法・ノウハウについて、文学部全体で実施される教員相互の授業参観や参観後の感想・意見の交換等を通して共有している。 (4) 規定人数を超える大規模授業を行わないように調整を行っているが、実際にはその調整が必要になるケースはまれである。3年生以上のゼミに関しては、3段階に及ぶ選考などを行い、人数の調整を行っている。具体的には、各ゼミにつき7～12 名程度を原則とし 2 年間そのゼミを固定させている。少人数授業が行われるため、学生相互や教員と学生の間で親密感や信頼感が醸成されており、それにもとづいて適切な履修指導が行われている。				
【根拠資料】 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
文学部履修要項(P39,P160,P161)				
文学部講義概要				
少人数・大人数授業の報告書(教務課)				
日本文化体験プログラム申込書				
日本文化特講Ⅰの授業マニュアル、日本文化特講Ⅴのシラバス				
ゼミ選択スタンブラリー資料				
ゼミ選択の説明資料				
各教員のゼミ選考課題指示書				
春のガイダンスのパワーポイント資料(教務課)				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
⑤	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	(1)	単位制度の趣旨に基づく単位認定を行っていますか。 また、既修得単位の適切な認定を行っていますか。	A
		(2)	成績評価の客観性、厳格性、公正性、公平性を担保するための措置を講じていますか。	A
		(3)	卒業・修了要件を明示していますか。	A
		(4)	〈修士課程・博士課程〉 学位論文審査基準を明示し、公表していますか。	
		(5)	学位審査及び修了認定の客観性及び厳格性を確保するために どのような措置を講じていますか。 学位授与に係る責任体制及び手続は明示されていますか。	A
		(6)	適切に学位授与を行っていますか。	A
【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など 第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 教養教育科目と専門科目を履修することで、広い教養と深い専門知識を修得し、社会の諸側面において自らのなかに課題をみつけ、探求していく姿勢、理論的思考と的確な判断力、社会の変容に対応できる力を身につけた学生に学位を授与している。また、各授業の単位の認定に関しては、単位制度の趣旨にもとづき、授業時間における学修のほか、授業時間外の学修に必要な時間とそこで行うべき学修の内容をシラバスに明記し、その成果も加味している。また、既修得単位の認定について履修要項に記載し、適切に行っている。				
(2) 単位の認定は、各教員の責任のもと、慎重かつ厳正に行っている。それぞれの単位認定においては、定期試験を基本としつつ、小テスト、受講態度、発表内容などを加味している。また、各授業の単位の認定基準については、シラバスに明記されており、そこでは、定期試験、小テスト、受講態度、発表内容などの比率が合計100%となるよう示されている。また、成績評価に対して学生側から疑問がある時には、教務課を通して申し出ることが可能であり、その都度対応を行っている。さらに、成績評価に関しては、各授業におけるAAの評価を、原則として、全受講生の2割を超えない範囲に制限している。				
(3) 日本文化学科卒業論文審査基準を事前に学生に公表するとともに、その基準にもとづく指導、ならびに提出された論文の評価を主査と副査の2人で行っている。卒業・修了要件については履修要項に明示し、学生に周知している。				
(5) すべての学生に対して、学位論文の審査を主査と副査の2人で行うことで、その客観性と厳格性を確保している。主査と副査はともに当該の論文を精査した上で、学生に対する口頭試問を行い、両者の合意によって単位の認定を行っている。学位授与は、文学部会の議を経たうえ最終的には代表教授会で審議・決定しており、客観性及び厳格性を確保している。				
(6) 学生は、所定の期間在籍し、学部学科の教育理念・教育目標に沿って設定した教養教育科目と専門科目を履修して、卒業要件単位である128単位を修得することが求められる。これらの取得単位の確認にもとづき、学科会議、ならびに文学部教授会、最終的には代表教授会においてその承認を経て学位授与を行っている。				
【根拠資料】 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
文学部履修要項の中の「単位認定」の項(P26-28)				
日本文化学科卒業論文審査基準				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
⑥	学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	(1)	各学位課程の分野の特性に応じて、学位授与方針に示した学習成果を測定するための多角的で適切な指標設定を行っていますか。 (特に専門的な職業との関連性が強いものにあつては、当該職業を担うのに必要な能力の修得状況を適切に把握できるもの。)	A
		(2)	学習成果を把握及び評価するために適切な測定方法を用いていますか。 《学習成果の測定方法例》 ・アセスメント・テスト ・ルーブリックを活用した測定 ・学習成果の測定を目的とした学生調査 ・卒業生、就職先への意見聴取	A
【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1)ディプロマ・ポリシーに基づき、「知識・理解」「汎用的能力」「態度・志向性」「総合的な学習経験と創造的思考力」を取得した学生に学位を授与する。具体的には、以下の通りである。「知識・理解」は、①日本文化・異文化について説明することができる、②日本社会の諸現象を通時的・共時的に論じることができる。「汎用的能力」は、①数量的に示された文化的・社会的事象を説明することができる、②ICTを用いて多様な情報から適切な情報を収集し、発信することができる、③知識や情報を利用して、問題を解決することができる。「態度・志向性」は、①自己の権利と義務を適正に行使することができる、②社会の発展のために積極的に関与することができる、③卒業後も自律・自立して学習することができる。「総合的な学習経験と創造的思考力」は、①これまでに獲得した知識などを活用して、課題を解決することができる、②これまでの学修体験から、自ら新たな課題を立てることができる。なお、2019年3月、アセスメント・プランを設定し、ディプロマ・ポリシーに示した学修成果を測定するための指標を設定した。				
(2)学修成果の測定を目的とした学生調査を大学の教務課が実施し、その結果は大学のホームページに公開されている。また、4年間の学修の集大成となる卒業論文の指導と審査において、日本文化学科では卒業論文審査基準に準拠した評価を行っている。				
【根拠資料】 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
文学部講義概要				
日本文化学科卒業論文審査基準				
学修状況実態把握に関するアンケート				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
⑦	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)	適切な根拠(資料、情報)に基づく定期的な点検・評価を行っていますか。 ・学習成果の測定結果の適切な活用	A
		(2)	点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	A
【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 春学期には7月、秋学期には1月に、各教員が大学所定の授業アンケートを原則すべての講義科目において実施し、それにもとづいて教育内容や方法の適切性についての点検、評価を行っている。また、文学部全体として、教員相互の授業参観を行い、参観後の感想や意見をまとめて交換している。これらについては、2019年度より文学部自己点検・自己評価委員会において、点検・評価している。さらに、2019年度より、学生の代表と教員が一同に会して、学生からの率直な要望や意見の聴取を行う試みを開始した。2023年度は11月8日(水)に、アルバム委員会参加の4年生に対して聞き取りをおこなった。これらの結果は、日本文化学科科会において点検・把握して報告書を提出している。2年生に対しては春学期にアンケートを行い、3年生と4年生に対しては春学期と秋学期に、各教員がゼミ毎に分担する形で全学生に対する面接調査を行うことで、各学生の学修成果を確認して教育方針の策定に活かしている。				
(2) 授業アンケートにおける学生からの自由記述欄のコメントは有益なものが多く、その指摘は教育内容や方法の改善に反映させている。また、学生に対するアンケートの結果は教員で共有するとともに、面接調査の成果はそれぞれのゼミの担当教員が学生指導に役立てている。その他、教員相互の授業参観を行い、参観後の感想や意見をまとめて交換している。これらの取り組みによって、各教員が教育の問題点とその改善策を共有するとともに、各教員の教育活動の意識と協力体制を高める作用がある。				
【根拠資料】 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
春学期 秋学期 授業アンケート結果集計				
2年生アンケート				

2. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。自己評価欄を「S」とした場合は、必ずその内容を成果とともに記述してください。

点検・評価項目番号	長所・特色
③	毎年5月に1年生対象の「ランチタイム懇談会」を行っている。ここでは、1年生を12名程度のグループに分け、それぞれに1人の教員を配置し、ともに食事をとりながら大学の学修、生活全般にわたる意見交換を行っている。それによって、問題を抱える学生に対する早期の対応を行っている。あわせて、入学時の課題図書にもとづくレポートを添削した上で直接返却し、修正すべき点などの指摘も行っている。ただし、2023年度は、コロナ感染症対策のため、食事なしの「ランチタイム懇談会」を実施した。
④	1年生を対象として、日本文化を体験するプログラムを行っている。具体的には、東山植物園における万葉植物の鑑賞、陶芸体験、匂い袋作成体験、雅印作成(篆刻)体験、座禅体験、美術館見学、テーブルマナー講習などを実施し、1年生はそこから1つ以上のプログラムに参加することが求められている。
④	2年生秋学期に全学生を対象として開講している日本文化特講Ⅰでは、文章表現などの能力向上をめざす指導を行う一方で、専門の茶道講師、日本画家、風呂敷普及協会の役員の方々を講師として招き、それぞれ90分×2コマずつ、茶道実修、日本画作成実修、風呂敷の使い方の実修を行い、実際に日本の伝統文化を体験する講義を行っている。
④	書道文化の授業の成果発表の場として毎年2月に名古屋市民ギャラリーにて「愛学院書展」を開催している。

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名

日本文化体験プログラム申込書

日本文化特講Ⅰの授業マニュアル

「愛学院書展」出品カタログ

3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。自己評価欄を「C」とした場合は、必ずその内容を記述してください。

点検・評価項目番号	課題・問題点
	なし

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画（既に実施している場合はその進捗状況も含めて）を記述してください。

点検・評価項目番号	改善策
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	

5. 「基準4」全体の自己評価

基準全体の評価を、 「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、 「C:重度な問題がある」から選択してください。	自己評価
	A

2023年度(評価対象期間:2023年4月～2024年3月) 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
①	学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。	(1)	学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針を適切に設定し、公表していますか。	A
		(2)	下記内容を踏まえた学生の受け入れ方針を設定していますか。 ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像 ・入学希望者に求める水準等の判定方法	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。 (1) 日本文化学科では、学位授与方針(DP)及び教育課程の編成・実施方針(CP)を踏まえた学生の受け入れ方針(AP)を適切に設定し、それを大学ホームページや入学試験要項に掲載し、公表している。 (2) 日本文化学科では、「言語」「文学」「思想と芸術」「社会と民俗」の4つの領域から、多角的に日本文化について考え、学ぶ意欲のある学生の入学を期待している。具体的には以下の通りである。 ① 高等学校での各教科、特に国語・社会・英語についての基礎学力を有し、大学で発展的内容を学ぶ意欲のある学生。 ② 正確な日本語の読み書きの基礎力をもつ学生が望ましい。一例として、漢字検定準2級程度の学力を有する学生。 ③ 他者の話の要点を捉えてメモし、考察の材料にできる能力は、大学の講義を受けるうえで必須である。さらに身の回りの文化や現象に、「なぜ?」「どうして?」という自分なりの疑問をもち、答えを探ろうとする姿勢をもつ学生。 上記のような入学前の学習歴、学力水準、能力等を有する学生が、求める学生像であることを示したアドミッション・ポリシーを設定している。また、アドミッション・ポリシーに示した学生を受け入れるため、一般入試においては所定の科目の試験を課すことで必要な学力水準を保っている学生を選抜している。また、推薦入試などにおいては、入学前の学習歴やその他の活動における能力や意力などを総合的に判断することで適切な学生の選抜を行っている。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
「アドミッション・ポリシー」ウェブサイト				
入学試験要項				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
②	学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	(1)	学生の受け入れ方針に基づき学生募集方法及び入学者選抜制度を適切に設定していますか。	A
		(2)	入試委員会等、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制を適切に整備していますか。	A
		(3)	公正な入学者選抜を実施していますか。	A
		(4)	入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜を実施していますか。	A
【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 学科のアドミッション・ポリシーにもとづき、入学者選抜方法としては、推薦入試(高大接続型入試、指定校制推薦、公募制推薦 A・B、スポーツ推薦Ⅰ期・Ⅱ期)、前期試験 A、大学入学共通テストプラス試験、前期試験 B、前期試験 M、大学入学共通テスト利用試験Ⅰ期・Ⅱ期、中期試験、後期試験を行っており、それぞれの選抜を公正に実施している。				
(2) 愛知学院大学入試委員会規程に基づき、代表教授会の下に設置された入試委員会において入学者選抜を実施する体制を適切に整備している。その上で、各入学試験の方法に則り、試験の実施、採点、評価を行い、上記の入試委員会において、合格者数、得点等を明確にし、客観性と透明性を確保している。				
(3) 上記に記したように、適切な入学者選抜実施のための体制のもと、公正な入学者選抜を実施しており、現在の入試システムにおいては、想定範囲内において、不正を行う余地は存在しないと確信する。				
(4) 一般入試においては、入学希望者への合理的な配慮と試験の成績にもとづき、きわめて公明正大な形での可否の判定を行っている。また、推薦入試においては、公平な観点にもとづき、学習歴や活動内容にもとづく合格者の決定を行っている。その決定は、さらに客観性と透明性を確保するため、全学の代表で構成される入試委員会において承認を得ている。また、配慮が必要な受験生から申し出があった際には、別室受験、拡大解答用紙の使用、試験時間の延長、医療機器の試験室への持ち込みなど、可能な限り対応している。				
【根拠資料】 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
「愛知学院大学入試情報」ウェブサイト http://navi.agu.ac.jp/examination/				

基準5. 学生の受け入れ

組織名

日本文化学科

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
③	適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。	(1)	入学定員及び収容定員を適切に設定し、在籍学生数を管理していますか。 <学士課程> ・入学定員に対する入学者数比率 ・編入学定員に対する編入学生数比率 ・収容定員に対する在籍学生数比率 ・収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応 <修士課程、博士課程> ・収容定員に対する在籍学生数比率	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。 ①入学定員は110名、収容定員は445名であり、いずれも適切に設定されている。 ②2023年度入試において、入学定員110名に対して入学者数は115名であり、その比率は1.05である。また、収容定員445名に対して、2023年5月1日現在の在籍者数は441名であり、収容定員に対する在籍学生数比率は0.99である。入学者数比率・在籍学生数比率ともに、過剰・未充足はほとんどなく、適切である。 ③充足率の5年平均は1.03、収容定員充足率は0.99以上であり、問題はない。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
「入学者数・収容定員及び在籍者数」ウェブサイト				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
④	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)	適切な根拠(資料、情報)に基づく定期的な点検・評価を行っていますか。	A
		(2)	点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	A
【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 学生募集および入学者選抜が適正に行われるよう、入試委員会で毎年度検証されている。学科の入試委員は入試委員会における検討内容を学科会議に伝え、学科教員は入学試験状況を把握している。さらに、自己点検・自己評価委員会や入試委員会等において、学生の受け入れの適切性(APの適切性、入学定員及び収容定員の適切性等)について点検・評価を行っている。				
(2) 上記の点検・評価結果にもとづき、改善・向上に向けた取り組みを行っている。				
【根拠資料名】上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
入試委員会資料				
日本文化学科科会資料				

2. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。自己評価欄を「S」とした場合は、必ずその内容を成果とともに記述してください。

点検・評価項目番号	長所・特色
	なし
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	

3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。自己評価欄を「C」とした場合は、必ずその内容を記述してください。

点検・評価項目番号	課題・問題点
	なし

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画（既に実施している場合はその進捗状況も含めて）を記述してください。

点検・評価項目番号	改善策
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	

5. 「基準5」全体の自己評価

自己評価
基準全体の評価を、 「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、 「C:重度な問題がある」から選択してください。
A

2023年度(評価対象期間:2023年4月～2024年3月) 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
①	大学の理念・目的に基づき大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	(1)	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針(分野構成、各教員の役割、連携のあり方、教育研究に係る責任所在の明確化等)を適切に明示していますか。	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1)日本文化学科では「文学部日本文化学科 教員組織の編制方針」を定め、本学科の専攻領域である「言語」「文学」「思想と芸術」「社会と民俗」の4分野それぞれに教員を配置することなど、教員組織の編制に関する方針を適切に明示している。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
文学部日本文化学科 教員組織の編制方針				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
②	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	(1)	大学全体及び学部・研究科等ごとの専任教員数は適切ですか。	A
		(2)	学部・研究科等ごとの専任教員数を適切に維持するため、計画的に募集・採用・昇任等を実施していますか。	A
		(3)	教員組織の編制に関する方針に基づき、適切に教員組織を編制していますか。 ・教員組織の編制に関する方針と教員組織の整合性 ・教育上主要と認められる授業科目における専任教員（教授、准教授、講師又は助教）の適正な配置 ・各学位課程の目的に即した教員配置（国際性、男女比等も含む） ・研究科担当教員の資格の明確化と適正な配置 ・教員の授業担当負担への適切な配慮 ・バランスのとれた年齢構成に配慮した教員配置	A
		(4)	学士課程における教養教育の運営体制は適切ですか。	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 学科の専任教員は合計で9名である。1学年学生数11人に対して1人の教員の割合であり、その人数は適切であると考える。				
(2) 教員組織の編制に関する方針にもとづき、学科に欠員が生じた場合には、分野を同じくする専任教員を募集・採用することによって分野ごとのバランスを維持するとともに、その時点における学科内の教員の年齢、性別のバランスも考慮して人選を行っている。また、現有の専任教員に関しては、適宜昇任を行うことで、職位と年齢のバランスも適切に保っている。				
(3) 本学科の専攻領域は「言語」「文学」「思想と芸術」「社会と民俗」の4分野からなり、担当教員はそれぞれ1名、2名、4名、2名である。この教員の配置は本学科設立以来のものであり、現状においても問題となる偏りはない。教員の男女比は、男性5名、女性4名であり、大きな偏りは認められない。各教員の担当科目数は概ね週7科目から8科目であり、各教員の担当負担に対する配慮は適切になされているといえる。教員の年齢構成は、60歳代が4名、50歳代が3名、40歳代が1名、30歳代が1名である。なお、2023年度の採用人事(2024年4月着任)では、本学科の年齢構成に配慮して、30歳代の教員1名を採用しており、年齢構成は一層バランスの良いものとなる見込みである。				
(4) 本学科の教養教育は教養部が担当するが、本学科においては教養部との間で密接な連携を保っており、専門課程への接続の面からみても、十分有効な教養教育を行っている。				

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名

大学案内(P34)

「日本文化学科」ウェブサイト <https://www.flet.agu.ac.jp/japaneseculture/index.html>

文学部講義概要

「教員組織・教員数」ウェブサイト

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
③	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	(1)	教員の職位(教授、准教授、講師、助教等)ごとの募集、採用、昇任等に関する基準及び手続を設定し、規程を整備していますか。	A
		(2)	規程に沿った教員の募集、採用、昇任等を実施していますか。	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1)「愛知学院大学文学部昇任・採用人事審査規程」が整備されており、それにのっとった採用、昇任を行っている。いずれの場合も、文学部人事審査委員会における審査の後、文学部教授会で二段階の審査が行われた上で学部長会議、代表教授会の議を経て決定されている。また、採用の場合には公募を行い、その情報はデータベース(JREC-IN)に登録、公開している。				
(2)2023年度には、上記規定に沿って、欠員の出ていた「言語」分野の採用人事、「文学」分野の昇任人事を実施した。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
愛知学院大学文学部昇任・採用人事審査規程				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
④	ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。	(1)	ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的に実施していますか。 ・教育改善以外に研究の活性化や社会貢献等の教員に求められる諸活動について資質向上を図る取り組みの実施 ※学部及び大学院について、それぞれの内容に特化したFD活動を行っているか、併せてご確認ください。	A
		(2)	教員の教育活動、研究活動、社会活動等の評価を行い、結果を活用していますか。	A
【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 春学期には7月、秋学期には1月に、各教員が大学所定の授業アンケートを原則すべての講義科目において実施している。その結果に基づいて、教員は自己評価および改善策などを記し、今後への課題の検討を行っている。また、文学部全体として、教員相互の授業参観を行い、参観後の感想や意見をまとめて交換している。これらの取り組みによって、各教員が教育の問題点とその改善策を共有するとともに、各教員の教育活動の意識と協力体制を高める作用がある。				
(2) 文学部紀要の中の「研究活動」の項目に、それぞれの教育活動、研究活動、社会活動の状況が報告されている。また、それらの活動成果がそれぞれの授業に反映されるとともに、昇任時等の条件、ならびに学科主催の講演会等の講師選定に活かされている。				
【根拠資料】 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
春学期 秋学期 授業アンケート結果集計				
『文学部紀要』中の「研究活動」の項				
全学FD活動報告書				
日本文化学科教員による社会活動調査表				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
⑤	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)	適切な根拠(資料、情報)に基づく定期的な点検・評価を行っていますか。	A
		(2)	点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	A
【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 文学部自己点検・自己評価委員会、学科会議等において、「教員組織の適切性」について点検・評価を行っている。				
(2) 上述の点検・評価の結果にもとづいて、「教員組織の適切性」の改善・向上に向けた取り組みを行っている。とりわけ、採用人事に際しては、その適切性をさらに向上させることを目指している。				
【根拠資料】 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
日本文化学科科会資料				

2. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。自己評価欄を「S」とした場合は、必ずその内容を成果とともに記述してください。

点検・評価項目番号	長所・特色
④	書道担当教員は書家としても活躍しつつ、一般社会人対象の指導も行っており、その成果を学生への指導に活かしている。美術担当教員は博物館などの協力員の経験を豊富に有しており、その成果を学生への指導に活かしている。思想担当教員の一人は寺院住職として実務家教員の役割も果たしている。その他の教員も、それぞれの研究成果を一般社会人向けの講座などで披歴する機会を多数持つとともに、学会運営などにおいても多くの活動歴を有している。

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名

日本文化学科教員による社会活動調査表

3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。自己評価欄を「C」とした場合は、必ずその内容を記述してください。

点検・評価項目番号	課題・問題点
	なし

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画（既に実施している場合はその進捗状況も含めて）を記述してください。

点検・評価項目番号	改善策

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名

5. 「基準6」全体の自己評価

自己評価
基準全体の評価を、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」から選択してください。
A

2023年度(評価対象期間:2023年4月～2024年3月) 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
②	社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。	(1)	学外組織との適切な連携体制を構築していますか。 地域交流、国際交流事業への参加に取り組んでいますか。	A
		(2)	社会連携・社会貢献に関する活動による教育研究活動を推進していますか。	A
【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 各教員が個別でカルチャーセンターなどでの講師を務めたり、社会的な役職を担っているが、学科全体として学外組織などとの連携体制は構築していない。ただし、各教員の社会的活躍は極めて多岐にわたっており、国内外の各種の組織、団体との協力、連携体制を構築している教員も多い。それらの活動は、学科全体として特定の学外組織と連携する以上に大きな活動成果を有している。				
(2) 文学会や人間文化研究所の予算が割り当てられる年度には、日本文化に関わる有識者などを日本文化学科として招請し、学内のホールを利用して、学生と一般を対象とする公開講演会を実施している。2023年度は、文学会講演会として2023年11月29日に「シルクロードから正倉院へ～古今の楽器と音楽を知る～」、人間文化研究所講演会として10月26日に「日本美術におけるパクリの系譜」という公開講演会を実施した。また、オープンキャンパスの際には、各教員が収集した研究資料などを一般に公開している。				
【根拠資料】 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
日本文化学科教員による社会活動調査表				
全学FD活動報告書				
愛知学院大学オープンキャンパス案内				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
③	社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)	適切な根拠(資料、情報)に基づく定期的な点検・評価を行っていますか。	A
		(2)	点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	A
【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1)『文学部紀要』中の「研究活動」の項目に、それぞれの社会貢献の状況が報告されている。また、日本文化学科社会貢献FD報告会で、それぞれの社会貢献の状況が報告され、定期的に点検・評価を行っている。				
(2) 上記の社会貢献の実績が、学科主催の講演会等の講師選定に生かされている。				
【根拠資料】 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
日本文化学科教員による社会活動調査表				
『文学部紀要』中の「研究活動」の項				
FD活動報告書				

2. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。自己評価欄を「S」とした場合は、必ずその内容を成果とともに記述してください。	
点検・評価項目番号	長所・特色
②	各授業において一般聴講生、開放講座生を受けいれているが、その中でも書道文化の授業においては、毎年2月に名古屋市民ギャラリーにて開催している「愛学院書展」に聴講生や開放講座生の作品も展示して各受講生の学修成果発表の場を供している。
②	オープンキャンパスの際には、各教員が収集した研究資料などを一般に公開している。
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	
「愛学院書展」出品カタログ	
愛知学院大学オープンキャンパス案内	

3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。自己評価欄を「C」とした場合は、必ずその内容を記述してください。	
点検・評価項目番号	課題・問題点
	なし

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画(既に実施している場合はその進捗状況も含めて)を記述してください。	
点検・評価項目番号	改善策
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	

5. 「基準9」全体の自己評価

基準全体の評価を、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」から選択してください。	自己評価
	A